

平成31年度 能美市立辰口中央小学校 学校評価 最終報告

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【目標指標】 (評価方法)	取組状況	今年度の達成状況および 次年度の取組について
1 組織的な 学校運営・ 働き方改革	①ましじ行動の実践 一人一人が学校経営への参画意識を高め、一体となって教育課題の解決に当たることにより、経営方針の具現化を目指す。	主幹	【努力指標】 「ま」「し」「じ」の観点に沿って、児童と共に活動や取組の目標を設定したり、振り返りをしていくこと、校長ビジョンの実現化を図っている。 (教師アンケート)	「ま」「し」「じ」の観点にそった目標の立案の浸透が見られるようになった。授業目標、行事のねらい、生活における短期目標など多岐にわたって活用できた。	・一つ一つの行事や取組において、「ま」「し」「じ」を意識し、学校目標との関連付けができてきた。 ・行事の精選が行われるのを機に取組と学校目標とのつながりを確かめながら、継続して取り組む。
	②働き方改革 学校経営方針の具現化に向け、働き方改革への意識を高め、業務の見直しを図る。	教頭	【努力指標】 業務遂行の時間短縮、効率化を意識し、業務改善に努めている。 (教師アンケート)	決められた時間の中で、業務を効率よく進めるよう意識することができた。しかし、時期によっては業務の重なりがあり、時間外が多くなる職員がいる。	・業務改善が意識されてきているが、子どもたちと向き合う時間の増加までには至っていない。 ・行事の見直し削減をさらに推し進めつつ、子どもたちに向き合う余裕が感じられるところまでつなげる。
	③人材育成 若手教員校内研修の実施を通して、全員が4つの資質能力指導力(授業力・生徒指導力・学級経営力・危機管理能力)の向上を図る。	主幹	【満足度指標】 教員育成指標や必要感に合わせた研修の場を計画的に設け、学んだことを日々の実践につなげている。 (教師アンケート)	達成度指数は中間に比べ下がったものの、肯定的判断が100%となった。実施時期や内容の選定により負担感を持たないような工夫が功を奏したと考えられる。	・研修を通して資質能力の向上が図られている。 ・実践につながる内容の充実や研修方法を工夫し、負担感の軽減を図っていく。 ・ベテラン教員から学ぶ機会を設けるなど、様々な研修を企画していく。
2 確かな 学力の 育成	①授業改善 組織的・計画的に校内研修を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善に努める。	研究部(坂本)	【努力指標】 講師や指導主事を招聘した校内研修を核にし、国語科で「児童の主体性を引き出し、読む力を育むための授業づくり」について理解を深め、自身の授業に生かしている。 (教師アンケート)	講師や指導主事を招聘した校内研修は計画的に進めることができた。研究が進むにつれて、授業づくりについての理解が全職員で深まってきた。	・主体的・対話的な学びが実現できるよう、学び合いなどの取組等も充実させる。 ・児童が友達との交流を通して、考えを広げたり深めたりできる授業を目指していく。
	②学力の定着 児童が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりや学力向上ロードマップの取組により、基礎基本となる知識技能の定着の徹底を図る。	主幹・坂本	【成果指標】 学力向上ロードマップに従い、確実に取組を進め、基礎基本となる内容に関する定着度90%以上の児童が85%以上となるようにする。	各学年、毎月テーマを絞って計画的に指導を進め、月末に基礎基本テストを実施してきた。定着度90%以上の児童の割合は、1学期に比べ伸びてきている。	・取組は軌道に乗り、着実な積み上げも感じられているが、達成率はまだ低い。 ・2段階となっている成果指数を見直し、引き続き取組を続けて学力の定着を図る。
3 豊かな 人間性 の 育成	①主体的な校風の創造 児童会活動を中心に自ら成長しようとする意欲、自分自身を律する心、主体性の伸長を目指し、よりよい校風をつくる意識を高める。	生徒指導部(徳田)	【成果指標】 様々な児童会活動において、「ましじ行動」を意識させ、児童の成長しようとする意欲、主体性の伸長を目指す。 (児童アンケート)	行事の前に各クラスで目標を立てるなどして「ましじ行動」を意識させることができるように取り組んだ。	・日々の学校生活の中で、「ましじ」目標を意識して行動できる児童が増えてきた。 ・児童会で決めた目標を全校で共通理解し、共通行動ができるよう工夫していく。
	②積極的な生徒指導 計画的に児童理解の場を設け、職員全員でいじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応に努める。	生徒指導部(杉森)	【成果指標・努力指標】 毎学期生活アンケートを実施、個人面談や四部会・職員会議で気になる児童の様子について共通理解を通して、児童一人ひとりについて認められる取組を学級・学年で行っている。 (教師アンケート)	1学期同様、2学期も計画的に生活・Q-Uアンケートを実施し、その後、個人面談をしている。また、四部会や職員会議でも情報交換をし全職員で児童の共通理解を図った。	・児童理解の会や毎月の職員会議、生活・Q-Uアンケート等を通して情報交換・共通理解を図り、未然防止・早期発見に努めた。 ・取組を継続し、全職員で児童を支援していく機会を確保していく。
	③心の教育の充実 講師の招聘や先進校への研修会参加等を積極的に行い、「考え議論する道徳」の授業づくりや実現をめざす。	教務部(北野)	【努力指標】 先進校への研修参加、校内研修会を通して、「考え、議論する道徳」の授業づくりについて理解を深めている。 (教師アンケート)	夏休みに道徳の教材研究や発問づくりについて学習する場を設け、学年ごとに指導案を作成し、実践した。また、先進校にも研修に出向き、実践の報告を行った。	・「考え議論する道徳」の授業が浸透しているとはいえず、研修を重ねていく必要がある。 ・指導案を作成したり、講師を招聘した研修を続け、道徳の授業力向上を目指す。
4 健やかな 心身の 育成	①体力・運動能力の向上 運動の楽しさや仲間と関わる喜びを感じられる体育授業の充実を図り、粘り強く取り組む態度を育てる。	保体部(津田)	【成果指標】 体育で運動することが好きである。 (児童アンケート)	スポチャレの取り組みや持久走、なわとびなど全校で運動に取り組むことができた。児童の意欲が高められるように掲示物も用意して取り組むことができた。	・運動に対して好きだと答えた児童が8割を超えている一方で、嫌いだと答えている児童が2割近くいる。 ・運動が少しでも好きだと思えるように、認め励まし合いながら達成感を味わえる授業づくりや体育委員会を活かした企画を考える。
	②健康教育の充実 健康やSNS等に関する指導を充実し、よりよい生活習慣の確立をめざす。	保体部(供田)	【成果指標】 よりよい生活習慣に関する知識を身につけている。 (児童アンケート)	高学年は11月の学校保健委員会(大人時間、子ども時間)を通して、「よりよい生活習慣」に関する知識を身につけることの大切さを考えることができた。低学年は体重測定の際のミニ保健指導で、「かぜ予防」について学ぶことができた。	・健康や正しい生活習慣についての知識は概ね身につけてきており、成果ととらえる。 ・生活の見直しやSNSとの付き合い方など情報モラル面に関して学習できる場を作りたい。
5 家庭・地域との 連携	①学校運営協議会との連携 学校運営協議会を通して、子どもたちの育成に関わる様々な話し合いを持ち、教育や子育ての支援に関わる環境づくりに努める。	教頭	【努力指標】 地域の教材や人材、施設を活用し、計画的にふるさと学習を進めている。 (教師アンケート) 学校運営協議会と連携を図りながら、地域と共にある学校づくりに努めている (保護者アンケート)	地域の教材、設備、自然の活用を学年で計画的に進めている。町の先生を新規に募集し、組織的に継続していけるよう進めている。	・様々な場面で、地域の方やボランティアの方々の協力をいただき、子どもたちの安心安全や学習を充実することができた。 ・地域や保護者の方々へ活動を周知することにより、ボランティアの規模を拡大しながら、より多くの連携方法を探り、さらなる学習の充実につなげたい。
	②家庭学習習慣の確立 家庭学習の計画を自分で立て、計画的に学習する習慣の確立をめざす。	研究部(坂本)	【努力指標・成果指標】 子どもの実態に合わせて質・量を考えて家庭学習を出し、意欲的に取り組めるように働きかけている。 (教師アンケート) 家庭学習の計画を自分で立て、計画的に進めている。 (児童アンケート)	子どもたちの実態に合わせて、質・量を考えて家庭学習を出している。しかし、児童が自分で計画を立てて進めていくには、家庭学習ががんばり週間の継続が必要。	・がんばり週間は、児童や保護者にとって家庭学習を見直すよい機会となっていることが感想から伺われた。 ・方法は変えずに、より児童のがんばりを価値づけ、児童一人一人をばげましながら家庭学習に自主的に取り組む習慣を確かにしたい。